W-5-3

ニヴフ語の節連結 －意味と形式－

蔡熙鏡
東京外国語大学 AA 研共同研究員

1. 導入

本発表では、ニヴフ語の節連結について、節連結の意味タイプとその意味を実現するために用いられる文法的手法について調べた結果を報告する[1]。節連結の意味タイプに関しては、Dixon (2009) が提案している分類基準を用い、主に東サハリン方言のデータを基に分析を行っているが、他方言の先行研究からの例も参照することがある。以下 2 節では、ニヴフ語の類型的特徴を示し、3 節では節連結の意味タイプとその形式の対応関係を見る。4 節では複数の意味機能を持つ形式について述べ、5 節でまとめを行う。

2. ニヴフ語の類型的特徴と節の構造

2.1. 類型的特徴

ニヴフ語の類型的特徴としては、SV / APV / ATRV 語順、膠着型の形態論、主要部後置型、従属部と主要部とのあいだに起こる頭子音交替現象などがあげられる。文脈で分かる場合は、主語・目的語などの名詞句の省略が可能であり、述語のみで完全な発話になり得る。また、コピュラはなく、名詞述語文は名詞句を並置するだけで良い。

主節は、一般的に文末に置かれ、直説法 (*-t* ~ *-nt*)・疑問法 (*-l*)・命令法 (*-ja*/*-ve* {2SG/2PL} など) の接尾辞のどれかをとる。非主節は、それがとる接尾辞によって次の 4 つのタイプに分けられる[2]。

① 補文節：名詞派生接尾辞 (*-t* ~ *-nt*、*-k*、*-f*)
② 連体節：形動詞接尾辞 (*-ø* ~ *-ŋ*)
③ 副詞節：接尾辞の種類が最も多く、主語の人称と数に一致を示すものとそうではないもの、文脈によって様々な意味で解釈されるものとそうではないものがある (具体的な形式は表 1 を参照)。
④ 引用節：主節＋*ha-*「そうする、そうである」

2.2. 節連結の構造

ニヴフ語の節連結には、様々な文法的手法が用いられており、形態統語的な観点から 4 つの異なる構造タイプに分けることができる。

① タイプ 1：副動詞

最も一般的な節連結の手法であり、副詞節を形成する様々な副動詞接尾辞が動詞語幹に標示される。

---

[1] ニヴフ語 (ギリヤーク語) は、ロシアのアムール川下流域とサハリン島の一部地域に分布する系統関係の不明な言語である。2010 年のロシア国勢調査によると、総人口は 4,652 人、そのうちの話者数は 198 人とされている。本発表における例文には、引用元の情報を示すが、標示がない例文は発表者の現地調査から得られたものである。なお、引用元の表記 (音素表記、日本語訳など) を一部変更していることがある。

[2] 非主節が主節として用いられることもある。例えば、条件の副動詞 *-ʁaj* 節は文末に置かれ、願望の意味を表すことがある。本発表では、いわゆる「言いさし」の表現は対象としない。

② タイプ 2：接続副詞

主節と非主節の意味関係をよりはっきり示すために、接続副詞を用いることがある。主に動詞 *ha-*「そうする、そうである」、*təmci-* / *həmci-*「このようである/そのようである」などに様々な副動詞接尾辞が付いて派生される。

(1) 丹菊・パクリナ (2008: 11)

naf *an* *aw* *ujɣi-r,* ***həmci-tata,*** *ax* *kʰlu-jvu-r,*

now also voice disappear-CVB.3SG be.like.that-CVB already be.afraid-IPFV-CVB.3SG

「声が消えて、そのようにしているあいだ、怖い思いをしていた。」

③ タイプ 3：名詞化＋格助詞 (与格 *=toχ* ~ *=roχ*、到達格 *=toʁo* ~ *=roʁo*、具格 *=kir* ~ *=ɣir*)

(2) 丹菊・パクリナ (2008: 18)

*hajmə-**f=toʁo**,* *hajmə-r* *mu-**f=toʁo**,* *morʰqo-r* *hunvuci-ʁavr-i-t=ra.*

old-NMLZ=TERM old-CVB.3SG die-NMLZ=TERM live-CVB.3SG exist-NEG-FUT-IND=FOC

「年老いるまで、年老いて死ぬまで、生きることはないだろう。」

④ タイプ 4：節の並置

節連結の標識を用いず、単に節を並置するという方法は、ニヴフ語では一般的ではないが、不確かさを表す疑問の標識 *=lu* ~ *=lo* が標示された節が並置されている例が見られる。前の節は上昇イントネーション、後ろの節では下降イントネーションで発音されるという特徴がある。

(3) 丹菊・パクリナ (2014: 62)

tʰəlɣur=lo? *cʰam=kun* *it-t=lo?*

narrative=Q shaman=PL say-IND=Q

「説話なのか、シャーマンが言ったことなのか (分からない)。」

3. 節連結の意味タイプ

Dixon (2009) は節連結の 6 つの意味タイプとその下位タイプを提案している。ここではそれぞれの意味タイプとそれを表す形式の対応関係を示す (表 1)。なお、2.2 節で挙げた構造タイプ 2 の接続副詞は、基本的に副動詞が表すほとんどの意味タイプに用いることができることから省略している。

Dixon (2009) は節間の意味関係を調べるために、焦点節 (focal clause; 中核的な行為・状態) と支持節 (supporting clause; 時間的環境・条件・前提など) に分けている。ニヴフ語の場合、統語レベル (主節と非主節) と意味レベル (焦点節と支持節) での分類は、主節＝焦点節でほぼ対応しているが、「目的」の意味関係のみは非主節＝焦点節の対応になっている。

表 1 から分かるように、副動詞 (と副動詞によって派生された接続副詞) による節連結は、その他のタイプも含めると、すべての意味タイプに関わっており、その次に「名詞化＋格助詞」の形式が「相対的時間」と「原因・結果」の節連結に用いられている。節を並置する手法は、ニヴフ語においては一般的ではなく、「離接」の意味を表す疑問文で用いられている例が確認できる (例 3)。なお、表 1 において、「原因」と「結果」、「拒絶」と「提案」、「現実的様態」と「仮説的様態」が一緒になっているのは、文脈によって両方の意味に解釈できることを表す。

表 1. ニヴフ語の節連結における意味と形式の対応関係

		副動詞	名詞化+格助詞	その他
I 時間	Is: 時間的連続	*V-r/-t-/n*「して」		
	Ir: 相対的時間	*V-ror/-tot/-non*「してから」 *V-pa*「してすぐ」 *V-ŋa~ŋə*「するとき」 *V-vul~ful*「してから」 *V-ivo*「する途中」 *V-tata*「する間」 *V-anke*「する前に」 *V-fke*「するとき」	*V-f=toʁo*「するまで」 [V-NMLZ=TERM] (*V-f=toχ*「する前に」 [V(-FUT)-NMLZ=DAT])[3]	*V-inə-ŋa~ŋə*「する前に」 [V-INT-CVB]
	Ic: 条件	*V-ʁaj*「すれば」 *V-ŋa~ŋə*「すると」 *V-pa*「したら」		
II 帰結	IIc: 原因	*V-r/-t/-n*「して」 *V-ŋa~ŋə*「するので」 *V-fke*「するので」 *V-lax*「したために」	*V-t=ɣir*「することで」 [V-NMLZ=INS]	
	IIr: 結果			
	IIp: 目的	*V-toχ~roχ*「しに」 *V-r/-t/-n*「するために」		*V-inə-r/-t/-n*「しようとして」[V-INT-CVB]
III 潜在的帰結				*V-ilakr-r/-t*「しないように」[V-PROH-CVB][4]
IV 追加	IVu: 順不同	*V-ra/-ta/-na*「して」 *V-r/-t/-n*「して」		
	IVs: 同じ出来事	*V-r/-t/-n*「して」		
	IVe: 精緻化	*V-ŋa~ŋə*「するとき」		
	IVc: 対比	*V-ʁajnapə*「しても」 *V-kisk*「しても」		
V 代替	Vd: 離接	*V-ra/-ta/-na*「したり」		節の並置
	Vr: 拒絶			*V-qavr-r/-t/-n*「しないで」[V-NEG-CVB]
	Vs: 提案			
VI 様態	VIr: 現実的			*V-t voci-r/-t/-n*「同じように」[V-NMLZ AUX-CVB]
	VIh: 仮説的			

[3] Nedjalkov and Otaina (2013: 80) のアムール方言の記述による。

[4] Gruzdeva (1998: 52) は、'purpositive converbs' として *-ilakrr* / *-ilakrt* という形式をあげている。ここでは、*-ilakr-r/-t* [-PROH-CVB] のように分析した形で挙げている。

4. 多機能を持つ形式

表 1 から分かるように、1 つの形式が 1 つの意味タイプにのみ使われることもあれば、複数の意味タイプに用いられることもある。副動詞では、「相対的時間」を表す *V-ivo*「する途中」、*V-tata*「する間」、*V-anke*「する前に」、「条件」を表す *V-ʁaj*「すれば」、「原因・結果」を表す *V-lax*「したために」、「目的」を表す *V-toχ~roχ*「しに」、「対比」を表す *V-ʁajnapə*「しても」、*V-kisk*「しても」などは、意味と形式で 1 対 1 の対応を示している[5]。名詞化＋格助詞の場合も「相対的時間」と「原因・結果」で 1 対 1 の対応となっている。Aikhenvald (2009) は、Dixon and Aikhenvald (2009) で収められている十数個の言語の記述から、頻繁に見られる多機能について、次のような表でまとめている。

表 2. 節連結標識の多機能 (Aikhenvald 2009: 390 を基に作成)

時間									
X	条件								
X	X	原因							
X		X	結果						
X		X	X	目的					
	X	X	X	X	潜在的帰結				
X	X	X	X			追加			
		X	X			X	対比		
	X				X	X	X	離接	
X		X							様態

※列の行が交差しているところに X がある場合は、両方に用いられる標識が少なくとも 1 つあることを表す。

表 1 のニヴフ語の例と比べてみると、ニヴフ語には「目的」と「追加」の両方に用いられている形式 *V-r/-t/-n* があるなど、いくつかの点で違いが見受けられる。ただし、前で述べたように、表 1 では「原因・結果」を一緒に扱っているなど、表 2 の結果と単純に比べることはできず、より細かな分析を要する。したがって、本発表では多機能を持ついくつかの形式をとりあげ、意味解釈に影響する要因について考えることにしたい。

① 副動詞 *-r / -t / -n*「して」

最も多様な機能を持っており、基本的には同主語文に用いられ、「時間」「帰結」「同じ出来事の追加」の意味を表す。例外的に異主語文に用いられることがあるが、その際には「順不同の追加」の意味を表す (例 4)。異主語である場合は、一般的に非主節に使役接辞が標示され、副動詞は主節の主語の人称と数に一致を示す。文の主語を揃えるという指示転換 (switch-reference) の機能を果たしており、多くの場合は「原因・結果」の意味を表す (例 5)。

(4) 服部 (1988: 1413)：異主語文「順不同の追加」

cʰi *cʰaj* *ra-**r*** *ɲi* *tamx* *ta-**t***

you.SG tea drink-CVB.2SG I tobacco drink-CVB.1SG

「あなたはお茶を飲んだし、私はタバコを吸った。」

(5) 使役＋副動詞 (指示転換)「原因・結果」

ɲi *cʰ=aχ* *pʰrə-**ku-t*** *ezmu-t.*

I 2SG=CAUSEE come-CAUS-CVB.1SG rejoice-IND

「私はあなたが来てうれしかった。」

[5] 対比の *-ʁajnapə* は、条件の *-ʁaj* と副詞 *napə*「まだ」からなるものであり、形式的な関連性を持っている。

② 副動詞 *-ra / -ta / -na*「して、したり」

「順不同の追加」と「離接」の意味を表す。副動詞 *-r / -t / -n* と同じく、主語の人称と数に一致を示すが、使役接辞なしで異主語文に用いることもできる。同主語文の意味解釈は、「離接」と「順不同の追加」の両方が見られ、文脈によるところが大きいと思われるが、異主語文では「順不同の追加」の意味で解釈される。

(6) 同主語「離接」

ɲin	*ətk*	*cʰo*	*ŋanəɣə-**ra***	*ŋa*	*ŋanəɣə-**ra***	*(ha-nt).*
we.EXCL	father	fish	look.for-CVB.3SG	animal	look.for-CVB.3SG	do.so-IND

「私たちの父は魚を獲ったり、獣を獲ったりした。」

(7) 異主語「順不同の追加」

ɲi	*əɣvo=ux*	*pant-**ta***	*...*	*nin*	*asq*	*milkvo*	*χau-f=ux*
I	black.town=LOC	born-CVB.1SG	…	we.EXCL	younger.sibling	Milk.town	call-NMLZ=LOC

*pant-**ra***	*(ha-nt).*
born-CVB.3SG	do.so-IND

「私はウグ村で生まれて、私の妹はミルク村と呼ばれるところで生まれた。」

文末には動詞 *ha-*「そうする、そうである」が来るが、省略されることが多い。Krejnovich (1934) と Panfilov (1965) は、この副動詞形を定形の独立節として扱っており、彼らの記述からすると並置の構造タイプということになるが、ここでは非定形の副動詞として扱っている。

③ 副動詞 *-ŋa~-ŋə*

この形式は、文脈によって「相対的時間」「条件」「原因・結果」の意味を表す機能を持つ。特に「相対的時間」の意味タイプにおいて、*V-ŋa~-ŋə* の形式は、文脈によって「してから」「している間」「する前に」の意味で解釈できる。一方で、*V-inə-ŋa~-ŋə* のように意図を表す接尾辞 *-inə*[6] と一緒に用いられると「する前に」の意味で解釈される (例 9)。

(8) 丹菊・パクリナ (2008: 44)

cʰamŋ	*lu-**ŋa***	*ɲi*	*kuz-t,*
shaman	sing-CVB	I	go.out-CVB.1SG

「シャーマンが歌っているとき、私は外へ出て、」

(9) 丹菊・パクリナ (2008: 41)

cʰam=kun	*lu-**jnə-ŋa***	*kuz-r*
shaman=PL	sing-INT-CVB	go.out-CVB.3SG

「(彼は) シャーマンたちが歌う前に (lit. 歌おうとしているとき) 外へ出て、」

---

[6] 接辞 *-inə* が状態・感情動詞に付加された場合は、「し始める」という「起動」のアスペクト的意味を表すことがある。例：*iɣlu-jnə-r* [恐れる-INT-CVB]「怖くなり始めて」(丹菊・パクリナ 2014: 38)

④　名詞化＋格助詞 [V-NMLZ=DAT]

アムール方言では、名詞化した際に動詞が時制を標示するかどうかによって意味が異なるという報告がある (Nedjalkov and Otaina 2013: 80)。「相対的時間」の意味を表す [V-NMLZ=DAT] は、未来時制が標示されている場合は ‘until’ の意味で解釈され、標示されていない場合は ‘before’ の意味で解釈されると述べている。東サハリン方言では、[V-NMLZ=DAT] の形式が節連結に用いられている例は確認できていない。

(10) Nedjalkov and Otaina (2013: 80)

a. *ōla=gu*　*ŋə-**nə**-f=toχ*　　*kʰlə=x*　*ler-dʲ.*

child=PL　be.dark-FUT-NMLZ=DAT　street=LOC　play-IND

「子どもたちは暗くなるまで外で遊んだ。」

b. *ōla=gu*　*ŋə-f=toχ*　　*kʰlə=x*　*ler-dʲ.*

child=PL　be.dark-NMLZ=DAT　street=LOC　play-IND

「子どもたちは暗くなる前に外で遊んだ。」

5. おわりに

本発表では、Dixon (2009) の意味分類に従い、ニヴフ語の意味タイプとそれを表す形式との対応関係をまとめた。本発表で取り上げた主な内容は次のとおりである。i) ニヴフ語は節連結に用いられる副動詞接尾辞を数多く持っており、ほとんどの意味タイプの節連結に副動詞が用いられる。ii) 節の並置という手法は一般的ではなく、「離接」を表す疑問文に用いられている。iii) 副動詞以外に名詞化＋格助詞も一部の意味タイプに用いられるが、意味と形式で 1 対 1 の対応関係を示す。iv) 多機能を持つ形式の意味解釈には、同主語／異主語、ヴォイスの操作、動詞の意味、モダリティー、テンス (アムール方言の例) が関わっており、節間の意味解釈に影響を与えている。しかしながら、表 1 であげた対応関係は完全なものではなく、4 節で挙げた Aikhenvald (2009) の結果との対応関係もまだはっきりしていない。この点に関しては今後の課題にしたい。

略号一覧

1/2/3　1, 2, 3 人称 / AUX 補助動詞 / CLT 接語 / CVB 副動詞 / DAT 与格 / FOC 焦点 / FUT 未来 / HAB 習慣 / IND 直説法 / INS 具格 / INT 意図 / IPFV 不完了 / LOC 処格 / NEG 否定 / NMLZ 名詞化 / PL 複数 / PROH 禁止目的 / PTCP 分詞（形動詞）/ Q 疑問 / REFL 再帰 / SG 単数 / TERM 到達格

参考文献

Aikhenvald, Alexandra Y. (2009) Semantics and Grammar in Clause Linking, pp. 380-402 of *The Semantics of Clause Linking: A Cross-linguistic Typology*, edited by R. M. W. Dixon and Alexandra Y. Aikhenvald. Oxford: Oxford University Press. / Dixon R. M. W. (2009) The Semantics of Clause Linking in Typological Perspective, pp. 1-55 of *The Semantics of Clause Linking: A Cross-linguistic Typology*, edited by R. M. W. Dixon and lexandra Y. Aikhenvald. Oxford: Oxford University Press. / Dixson R. M. W and Alexandra Y. Aikhenvald (eds.) (2009) *The Semantics of Clause Linking: A Cross-linguistic Typology*. Oxford: Oxford University Press. / 服部健 (1988)「ギリヤーク語」亀井孝・河野六郎・千野栄一 (編)『言語学大辞典 第 1 巻』1408-1414. 東京：三省堂 / Krejnovich, E.A. (1934) Nivkhskij (giljackij) jazyk (The Nivkh (Gilyak) language). In *Jazyki I pis'mennost' narodov Severa. Part III*, E.A. Krejnovich (ed.), 181–222. Leningrad: Institut narodov Severa, Uchpedgiz. / Nedjalkov, V. P. and G. A. Otaina (2013) *A Syntax of the Nivkh Language: The Amur Dialect*. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins. / Panfilov, V.Z. (1965) *Grammatika nivkhskogo jazyka*, Part II. Moscow-Leningrad: Nauka. / 丹菊逸治・パクリナ (2008)『V・サンギ採録ニヴフ語サハリン方言音声資料集（1）－フトククさんの昔話と体験談－』東京: 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 / 丹菊逸治・パクリナ (2014)『ニヴフ言語文化資料集 1 タチヤナ・ウリタ伝承集』札幌: 北海道大学アイヌ・先住民研究センター